

# 令和2年度学校自己評価システムシート（県立秩父特別支援学校）

目指す学校像	健康で心豊かな人間の育成と社会的自立をめざし、児童生徒一人一人の障がい特性や教育的ニーズに応じた教育を推進するとともに、地域に貢献する特別支援教育のセンター的機能を果たす。
--------	--

重点目標	<p>1 児童生徒一人一人の障がいの状態や特性及び教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた自立活動の視点を踏まえた集団及び個別の授業を実践し、専門性を向上させる。</p> <p>2 保護者・地域の学校等関係機関との連携を密にし、交流及び共同学習、支援籍学習、現場実習、研修会、巡回相談の内容を充実させて、地域の特別支援教育に貢献する。</p> <p>3 児童生徒の安全を確保し、児童生徒自らが生涯を通して、健康に生きる力を身につける教育活動を展開する。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					令和2年度評価（月日現在）	
年 度 目 標					評価項目の達成状況	達
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策
1	○新学習指導要領を踏まえ、下校時刻や週授業時数等を見直し新たな教育課程を編成した。今年度はその成果と課題について精査する。また、新学習指導要領の実施に伴い、教育目標全般の見直しを行う必要がある。	①新学習指導要領を踏まえた新たな教育課程の成果と課題の精査、並びに教育目標全般の見直し	①-1 教育課程検討委員会と各学部が連携し、新たな教育課程の実践と成果、課題について12月を目途に精査し、成果を更に深め、課題を全校で共有、改善し、次年度の編成に繋げる。 ①-2 教育課程検討委員会が中心となり、教育目標全般について、新学習指導要領を踏まえ、分かりやすさを重視して見直しを行う。また、併せて目標を視覚化した新たなランドデザインを作成も行う。	①-1 新たな教育課程により各教科の学びの連続性が担保されるなど内容面の充実が見られたか等、成果と課題について精査し、改善に繋がられたか。（12月を目途） ①-2 教育目標全般について、新学習指導要領を踏まえ、分かりやすさを重視して見直しを行えたか。また、新たな教育目標を含め本校の教育活動全般を視覚化したランドデザインを作成できたか。		
	○各学部と自立活動部の連携（秩父スタイル）が定着した。全担任による「自立活動の指導計画」の作成や、自立活動以外の指導案にも各児童生徒の自立活動の内容を記載して研究授業等を実施する等の取り組みにより授業改善を実現できた。今後は教員個々の実践の成果を学校全体でブールし、学校全体の教育力を高めていく必要がある。また、児童生徒の将来像を見据え、連続性のある目標設定と支援の工夫を行うことで、更に充実した教育内容を実現する。	②学校全体の教育力の向上	②-1 各学部と自立活動部の連携を保ち、本校の指導体制「秩父スタイル」を実施（縦の学部間連携と横の各学部と自立活動部との連携）、強化していく。手立てとして、日々の実践において「自立活動の指導計画」を更に活用し、事例研究会、研修会等を通じ成功事例を共有することで、学校全体の教育力を高める。 ②-2 児童生徒一人一人の将来像を見据えたトップダウン型の思考により現在の目標を設定し、児童生徒の主体性を引き出しながら、自立と社会参加を見据えた授業改善に取り組む。初任者を中心とした教員の他学部授業体験や、進路指導主事・副主事の授業参加等を通じ、多角的な視点をもって学びの連続性を担保する。	②-1 既存の研修会の活用に加え、学部研修会に事例研究を取り入れ、成功事例を共有する機会を増やす。また、教務研修部が中心となりサーバー上に教材データの保存場所を作成し、個々の教員が活用しやすい環境を作る。 ②-2 研修会の活用に加え、初任者を中心とした教員の他学部授業体験や、進路指導主事・副主事の授業参加等を通じ、多角的な視点をもって学びの連続性を担保できたか。また、進路副主事の新設が、肢体不自由教育部門の生徒の円滑な進路実現に繋がられたか。		
2	○秩父地域唯一の特別支援学校として、特別支援教育のセンター的機能を発揮してきた。昨年度までの実績を踏まえ、連続性のある「多様な学びの場」を一層充実させるとともに、特別支援教育の推進拠点として、将来にわたる充実した支援の実現に向け、地域連携と地域への積極的な働きかけを更に強化していく必要がある。	①多様な学びの場の充実	①-1 引き続き各交流会等を充実させ、多様な学びの場を実現する。また、交流学習、支援籍学習に留まらず、作品交換、手紙のやりとり等を含め、学校間、学級間等のつながりをさらに深められたか。 ①-2 新たに進路指導副主事を設置し進路指導体制を強化する。実習先の確保により多様な学びの場を実現し、進路先として活用できるようにする。特に医療的ケアが必要な生徒の現場実習先等の確保に向け、各関係機関と連携する。	①-1 交流会、支援先学習等に加え、作品交換等のやりとりなどを通じ、心理的なつながりを更に深められたか。また、各交流会等において、目標を具現化させた取り組みがなされたか。 ①-2 医療的ケアに必要な児童生徒の将来にわたる生活の場の情報収集、情報共有が図られ、生徒の実態及び保護者の希望に近づく実習先の確保並びに進路実現が図れたか。		
		②センター的機能の一層の充実	②-1 校内（各学部主事が要望を集約して要請）並びに地域の教育的ニーズに応じ、丁寧な情報収集、具体的に活用しやすい助言、指導支援を行う。 ②-2 地域の高等学校と連携・協力し、センター的機能をより一層充実させる。	②-1 校内並びに地域の教育的ニーズに応じた指導支援の取り組みが具体的に図れたか。 ②-2 地域の高等学校の要請に応じ、授業改善、相談など、効果的な支援を実現できたか。		
3	○医療的ケア実施要項に新たに明記された内容は、保護者の負担軽減に繋がりが有益だった。一方、児童生徒の更なる安心・安全な教育環境の実現に向け、災害対応等について強化していく必要がある。また、児童生徒自らが生涯にわたって豊かな生活が送れるような指導支援を更に充実させることが課題である。	①安全・安心で健康的な教育活動の充実	①-1 感染症予防の観点から、手洗いや換気等の習慣づけなど新たな視点を加え、児童生徒の発達段階を考慮した学校保健計画をもとに、月間目標に基づいた具体的な学習内容を指導することで、保健教育を充実させる。 ①-2 生徒指導部を中心として引き渡し訓練を新設し、保護者を含めた災害対応訓練を実施する。	①-1 感染症予防など社会の要請に応じ、且つ児童生徒の発達段階に考慮した保健指導に関する学習内容を、具体的に指導できたか。 ①-2 保護者と連携し、引き渡し訓練を実施できたか。		
		②生涯にわたる生活の充実	②-1 新設した接遇講師の活用を含め、生徒の将来の社会生活（職業生活・家庭生活・余暇生活・地域生活）を豊かにするための教育内容の改善に取り組む。また希望者に週3回の部活動を継続して実施する。 ②-2 保護者からの卒業後にも利用したいとの希望がある旨を放課後等デイサービス事業者等へ伝えるなど、生徒の卒業後の生活の充実に向け、地域の関係機関に引き続き情報提供を行い、研修案内、相談事業等も実施していく。	②-1 接遇講師の活用等を含め、生徒の将来の社会生活を豊かにするための授業等の改善や部活動の充実が実現できたか。またそれにより、児童生徒に生涯にわたる生活の基盤ができたか。 ②-2 放課後等デイサービス事業者へ保護者のニーズを伝え、且つ指導・支援に関する情報提供、相談事業の実施により連携し連携を強化し、将来のサービス実現に向けた礎を築けたか。		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和 年 月 日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	

